

## 背景

- 平成24年4月に介護保険法が改正され「たんの吸引」等の医療処置も介護福祉士等が実施できるようになった。これらの医療処置は医療者が感染する可能性があり、また介護保険施設はノロウイルス感染症など様々な感染症が流行すると感染拡大しやすく感染予防が重要となる。
- 耐性菌をはじめ様々な病原体伝播の問題は一医療施設で解決するのは難しく、医療施設が連携して取り組む必要がある。

## 目的

介護保険施設において、感染予防対策のためにケア提供者が求めているニーズを明らかにすること。

## 倫理的配慮

講義、演習の開催時に質問紙調査の目的と方法について口頭で説明し、質問紙は無記名で質問紙回収箱への投函により同意が得られたものとした。

## 研究方法

対象： A市内の在宅医療従事者（看護師、介護福祉士等）

方法： 感染予防の基本的な知識を提供する講義（平成24年12月10日）と演習（12月15日）を開催。終了時に受講生を対象に質問紙調査を実施。

質問項目：

- 講義** 22項目（属性、組織の感染予防、感染予防策に対する知識など）
- 演習** 9項目（属性、演習内容に関する感想、今後の感染予防に関する講演会の要望や感想など）

講義と演習の内容

	内容	時間	担当講師
講義	細菌学の観点からの耐性菌の種類	25分	医師
	抗菌薬の種類と使用上の注意	25分	薬剤師
	標準予防策と感染経路別予防策	25分	看護師
	介護保険をめぐる動向と感染対策	75分	保健所長
演習	細菌学演習 MRSAなどの微生物に関する演習	45分	医師
	薬剤関連演習 抗菌薬・消毒薬に関する演習	45分	薬剤師
	感染予防技術演習 手指衛生・感染防護具の着脱	45分	看護師

## 結果・考察

### 講義

参加者：44人  
有効回答：33人（有効回収率75%）



- 感染予防に関する知識は82%が有しており、標準予防策を「いつも実施」「ほぼ実施」と回答したのは76%であった。
- 多施設との連携では、感染予防対策向上のために相談したいと回答したのは67%にものぼり、相談内容は「マニュアルの妥当性」、「感染症発生時の対応」が多かった。

表1. 講義参加者の属性 (n=33)

項目	人数 (%)
職種	看護師 24 (73)
	介護福祉士 6 (18)
	ヘルパー 2 (6)
	理学療法士 1 (3)
職位	スタッフ 20 (61)
	管理職 10 (30)
	無回答 3 (9)
職歴	0~10年 10 (30)
	11~20年 12 (36)
	21~30年 7 (21)
	31年以上 2 (6)
	無回答 2 (6)

表2. 施設の属性と感染対策 (n=33)

項目	人数 (%)
属性	介護老人保健施設 17 (52)
	特別養護老人ホーム 9 (27)
	病院 2 (6)
	保健所 2 (6)
	養護老人ホーム 1 (3)
	有料老人ホーム 1 (3)
感染対策	無回答 1 (3)
	感染対策委員会 30 (91)
	感染対策チーム 13 (39)
	感染対策マニュアル 28 (85)

表3. 日常業務で行っているケア (n=33, 複数回答)

項目	人数 (%)
食事介助	28 (85)
オムツ交換	24 (73)
口腔・鼻腔内吸引	22 (67)
褥創処置	21 (64)
経管栄養	18 (55)
導尿	15 (46)
注射	12 (36)
ストーマ管理	12 (36)
気管内吸引	8 (24)
在宅酸素の管理	4 (12)
人工呼吸器管理	1 (3)
高カロリー輸液管理	3 (9)

表4. 感染予防に関する知識と行動 (n=33)

設問内容	人数 (%)
知識	標準予防策を知っている 27 (82)
	「石けんと流水による手洗い」と「速乾性擦式手指消毒」の使い分け 27 (82)
	手指衛生のタイミング 27 (82)
	個人防護具の着脱の順番 27 (82)
行動	標準予防策の実施状況
	いつも実施 3 (9)
	ほぼ実施 22 (67)
	あまり実施していない 2 (6)
実施していない 2 (6)	
無回答 4 (12)	

表5. 多施設との連携について (n=33, 複数回答)

項目	人数 (%)
感染予防対策向上のために相談したい	22 (67)
マニュアルの妥当性	15 (46)
感染症患者発生時の対応	13 (39)
隔離	9 (27)
手指衛生	4 (12)
使用器具の消毒	4 (12)
感染経路	3 (9)
個人防護具	3 (9)
吸引カテーテルの使用	1 (3)
情報を得るツール	
インターネット	24 (73)
雑誌・図書	16 (48)
施設内の医師	11 (33)
施設内の看護師	8 (24)
施設外の医師	2 (6)
地域ネットワーク	2 (6)

### 演習

参加者：6人  
有効回答：6人（有効回収率100%）



- 感染予防対策のためにケア提供者が求めているニーズとして、より専門性の高い情報について、専門家の助言を必要としていた。インターネットなどの利用しやすいツールを用いて情報提供を行っていくことが強化すべき対策と考えられた。

結果(演習): 感想と今後の感染予防に関する要望

- 全体**
  - 演習で実践した消毒薬の作成方法や感染予防技術については、現場のスタッフが実践できるように取り組んでいきたい (3人)
- 細菌学演習**
  - スポンジ・トイレ等、物品や環境からどれくらい実際菌がいるのか理解できた。
  - 菌を持ち込んだり増やさないといい感じ。
- 薬剤演習**
  - 使用する用途によって、正しい希釈をしようと思った。
  - 菌が減少したことは目に見えないので正しい濃度で使用して感染拡大を防いでいきたいと思った。
- 感染予防技術演習**
  - 誰でもいつでも実践できるよう取り組みたい。
  - 現場のスタッフが実施しやすいように物品を備えていきたい。
- 今後の要望**
  - マーゲンチューブの管理方法
  - 中小規模施設を対象とした研修会

表6. 演習参加者の属性 (n=6)

項目	人数 (%)
職種	看護師 4 (67)
	薬剤師 1 (17)
	マネージャー 1 (17)
職位	スタッフ 4 (67)
	管理職 2 (34)
職歴	0~10年 3 (50)
	11~20年 3 (50)
施設属性	介護老人保健施設 2 (34)
	病院 2 (34)
	特別養護老人ホーム 1 (17)
養護老人ホーム 1 (17)	

## 会員外共同研究者

名古屋市立大学大学院医学研究科 長谷川忠男  
松井秀之  
木村和哲

名古屋市千種保健所 鈴木幹三

## 謝辞・研究費

データ集計に関するご助言を頂きました前・名古屋市立大学看護学部・山本洋行先生に深謝致します。

研究助成：平成24年度名古屋市立大学特別研究奨励費